

# 【社会】 < 中学校 第1学年 >

## 1 結果のポイント

「地理的分野」について、正距方位図法を基に任意の都市の位置を読み取る問題や、八方位の理解をみる問題、等高線のきまりを活用してある地点の高さを求める問題では、正答率が75%を上回っている。

地図と地球儀を活用する問題や、時差を活用し地図上のある場所の時刻を求める問題では、正答率が55%を下回っている。また、複数のグラフを比較・関連させて読み取り、県の工業の特色を判断する問題や、実際に略地図を描く力をみる問題では、正答率が50%を下回っている。

「歴史的分野」について、各時代の代表的な文化財やそれを大成させた人物についての理解をみる問題では、正答率が75%を上回っている。

世紀などの年表の基本的な事項の理解をみる問題や、時代の特色を資料から読み取り、その時代の人々の生活の様子について判断する問題では、正答率は50%を下回っている。

室町時代の日明貿易の様子について、複数の資料から内容を読み取り、キーワードを用いて適切に自分の考えを記述する問題では、正答率が60%を下回っている。

## 2 結果の分析

### (1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

問題 6の1 5の1

6 1 三郎さんは、集めたA～Fの資料を同じ時代ごとに2つずつ組み合わせ、3つに整理しました。同じ時代ごとに正しく組み合わせるものを、次のア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。  
( 選択肢, 資料は略)

5 1 年表中の にあてはまる時代名を書きなさい。( 年表は略)

結果 6の1 正答率 79.8% (正答...イ)

5の1 正答率 67.4% (正答...平安)

### 分析

6の1は、「各時代の様子を示す代表的な文化財の理解」をみる問題である。また、6の2は、「質素なわび茶の作法を完成させた人物として千利休の理解」をみる問題であり、正答率は、76.9%である。昨年度「各時代の様子を示す文化財から室町時代の代表的な文化財を選び、その特色の理解」をみる問題を出題したが、正答率は、41.4%であった。このことから、時代を代表する文化財や文化に携わる人物についての指導の改善が図られてきたことが分かる。

5の1は、「年表を読み取る基本事項として『時代区分』についての理解」をみる問題である。昨年度の63.5%より、やや正答率が上がってはいるものの、誤答についてしてみると、「古墳」「江戸」等の記述や、依然として1割程度の無回答がみられる。これらのことから、「時代名」という言葉の意味が十分に理解されていないことや、年表を活用した学習が十分に図られていないことが分かる。年表に関連して、5の3は、「『世紀』についての理解」をみる問題であるが、昨年度の正答率を下回って36.6%である。誤答は最も多い「8」の他にもいくつかあり、5%程度の無回答もみられる。

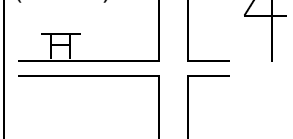
以上のことから、「我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を理解させる」ために不可欠な、時代区分や世紀の意味やきまりについては、年表を活用して繰り返し指導し、定着を図る必要がある。

### (2) 「資料活用・表現」の力をみる問題の例

問題 4

4 花子さんは、太郎さんに略地図を書きながら、自分の家の場所を説明しています。下の「花子さんの説明」を読んで解答用紙の略地図を完成させなさい。  
「花子さんの説明」：太郎さんの家( )の東側の道路を南へ行くと、左側に市役所( )が見えてきます。その交差点を西に進むと、右側に神社( )が見えてきます。私(花子)の家( )は、道をはさんで神社の南側にあります。

(正答例)



結果 正答率 37.3%

### 分析

この設問は、「与えられた情報を手がかりとして、略地図に書き表すことができるか」をみる問題

である。誤答を分析すると、「太郎さんの家( )の東側を南へ行く」ことまでは、正しく記されているが、市役所の位置が道路の西側に描かれている例が多い。しかし、**4**が誤答であっても、**3**の1の設問が正答である生徒は多く、八方位を用いて方位をとらえる技能は身に付いてきているといえる。また、**3**の4の設問の正答率は、85.1%であり、等高線のきまりを活用して高さを求める技能も身に付いてきている。だが、**3**の2のように「C地点から周囲を見渡す」ことや「E地点まで登って」地域全体の土地利用の様子を問うと、主な地図記号は、理解できているが、基準となる地点が定まらず、位置や空間的な広がりとのかかわりで地域的特色を理解することが不十分であることが分かる。これらのことから、今後も観察や調査活動を基に地域的特色をとらえる際には、大縮尺の地図を活用する技能を身に付けさせるよう、指導を工夫することが必要である。

(3) 「思考・判断」の力をみる問題の例  
問題 **5**の6

- 5** 6 カードEの人物が生きた時代の様子を説明した文として、最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。
- ア 租、調、庸などの税のほか、兵役の義務も課せられた。
  - イ 村ごとに惣とよばれる自治的な組織をつくり、おきても定めた。
  - ウ 浄土真宗や禅宗など新しい仏教の教えが広まり、人々の心をとらえた。
  - エ 朝鮮半島からの渡来人が、鉄製の農具や須恵器を作る技術を伝えた。

結果分析 **5**の6 正答率 46.5% (正答...ア)

**5**の2の「各時代の主な出来事や資料から各時代の特色をつかみ、時代の流れを判断することができるか」をみる問題の正答率は、平成18年度と同様の問題よりも、10%上昇した。また、**5**の4の「時代の主な政策の中から、平安時代に行われた摂関政治についてかかわりのある政策を判断することができるか」をみる問題の正答率は、80%を上回っている。このことから、時代の流れと政治を結び付けて考える力は育ってきているといえる。

しかし、**5**の6の「奈良時代の特色を資料から読み取り、時代に関わった人々の生活の様子を判断することができるか」をみる問題において、誤答としてはウが多く、仏教による影響を受けた時代であることは判断できているが、人々の生活や政治とのかかわりで仏教をとらえていないことが分かる。このことから、時代の特色について、政治と人々の生活や文化を結び付けて考えることに課題があることが分かる。こうしたことから、政治、外交、社会生活などにかかわる歴史的事象を多面的・多角的に考察することで各時代の特色を明らかにすると共に、明らかにされた各時代をとらえる見方や考え方で、各時代の歴史的事象をとらえ直してみる指導の充実を図っていく必要がある。

また、**7**の1は、「日明貿易の様子について、二つの資料から、問題点と解決策を読み取り、二つの資料をかかわらせながら適切に表現することができるか」をみる問題で、平成18年度と同一問題である。正答率は4%ほど高まっているが、無回答の割合が15%ほどあり、適切に自分の考えを記述することに課題がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

基礎的・基本的な知識や技能を活用する時間の確保を！

次のような学習内容を必ず指導計画に位置付ける。

- ・地図や地球儀を活用して、緯度や経度、日付変更線の意味を理解しながら国の位置を確認したり、時差を求めたりする学習

右記の「方位と距離を調べよう」参照

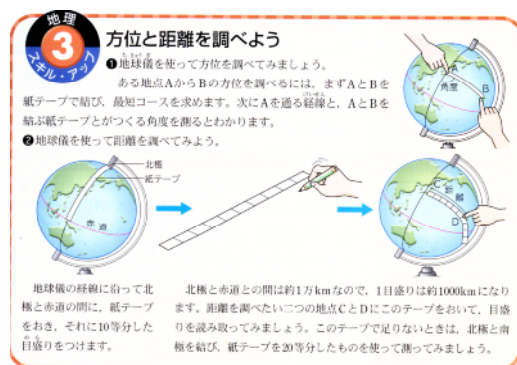
特に、地球儀上の最短コースを地図に記入し、地図上の最短コースと比べたり、高緯度や赤道付近の国の大きさを地球儀と地図で比べたりする学習

- ・観察・調査や大縮尺の地図を活用して、身近な地域を調べる学習

作業的な学習を指導計画に位置付ける。

- ・常に八方位を用いて位置を確かめる指導や、等高線を活用して断面図を描いて地形のようすを明らかにする学習
- ・地図記号を活用して、土地の利用別に着色をする学習
- ・調査結果を用いて、図表や地図で示す学習

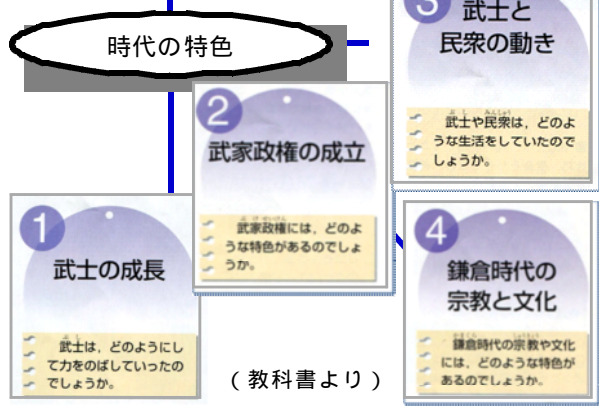
多面的・多角的な見方や考え方が身に付くよう単元指導計画の工夫を！



(教科書 地理的分野 15頁)

- 各分野において、学習指導要領が示す内容を踏まえ、多面的・多角的に社会的事象を考察できるように単元指導計画を工夫する必要がある。
- 例えば、右記に記述されているように、時代を政治、生活、文化などの面で学習したり、幕府の立場、農民の立場などから歴史的事象をとらえたりする学習を指導計画で意図的に位置付けることで、「時代の特色」と結び付けて単元を構成するよう工夫することが大切である。

武士の台頭と鎌倉幕府



基礎的・基本的な知識・技能について繰り返し確認する時間の確保を！

- 地形図の読み取り方や時代や年代のあらわし方について繰り返し確認する時間を位置付けることで、生徒の理解度を確かめるとともに、生徒自ら地図や年表を利用する学習姿勢をつくりあげることが大切である。

右記のような基礎的・基本的な知識・技能は繰り返し指導したい。

7 地形図の読み取り方

地形図を読むときには、次のことに注意しながら見てみましょう。

- 地形図の縮尺を確認する。
- 等高線のように地形の特色を読む。
- 自然の地形と市街地、交通路などとの関係をつかむ。
- 地形と土地利用との関係をつかむ(土地利用別に着色すると読み取りやすい)。
- 地名と地域のように、地域の発展や歴史との関係を読む。
- 古い地図との比較によって、地域の変化を読み取る。

※地図上のある地点間の距離は、実際にどれくらいなのだろうか。

●2万5000分の1の地形図上の長さが4cmの場合  
4(cm)×25000=100000(cm)  
= 1000(m)  
= 1(km)

※高さの等しい地点を結んだ線を等高線といいます。これによって土地の高さや傾斜をつかむことができます。

●(地形図中の○の地点)  
○(赤まる)地点：等高線の間かくが広い＝傾斜がゆるやか  
○(青まる)地点：等高線の間かくが小さい＝傾斜が急

(教科書 地理的分野 50頁)

1 時代や年代のあらわし方

- 西暦年  
ヨーロッパで考え出された年代のあらわし方で、イエス・キリストが生まれたと考えられていた年を紀元1(元年)とし、その前を紀元前何年、その後を紀元何年(紀元後何年)と数えます。  
また、西暦年の100年を単位にして年代を区ざり、世紀というあらわし方があります。今は、21世紀です。
- 年号(元号)  
日本では、中国にならって、7世紀の中ばごろから使われるようになりました。明治以後、天皇の代ごとに年号は一つと決められました。慶応、元禄、明治、昭和、平成などです。
- 時代区分  
ほかに、いつごろのことがあつたのか、どのような時代の分け方があります。  
○原始、古代、中世、近世、近代、現代など  
社会のしくみの特徴によって、時代を大きく分けていく方法です。  
○奈良時代、平安時代など  
そのときどきの政権がわちどどこにあつたかによって、時代を分ける方法です。

→紀元前 紀元後→ 1世紀 20世紀 21世紀  
3 2 1年 2 3 1998 1999 2000 2001

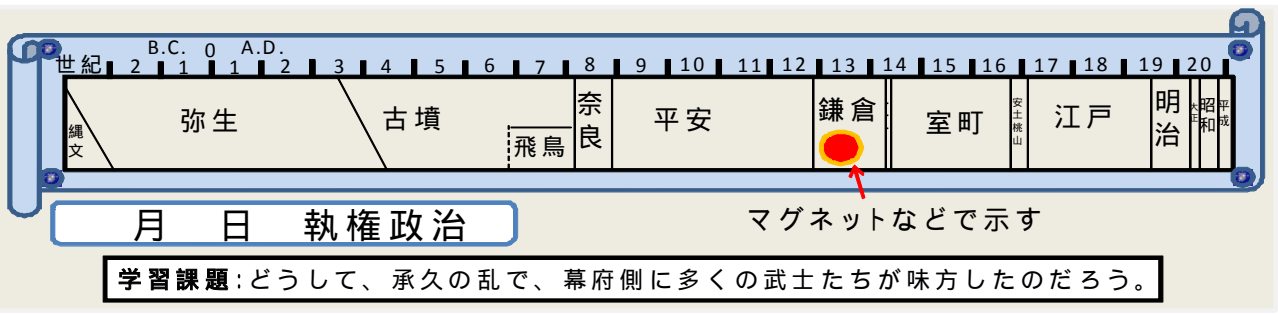
(教科書 歴史的分野 6頁)

(2) 指導方法の工夫改善

本誌、中学校第2学年の「分析を踏まえた指導の改善」を参照 . . . . . 例

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成

地理的分野の学習の時間は、「地図」を、歴史的分野の学習の時間は、「年表」を板書に！  
< 歴史的分野の時間の板書例 >



- 歴史的分野の学習では、黒板等に上記のような「線年表」を常に位置付け、本時の学習内容が、「いつの時代の、何世紀頃の出来事なのか」を生徒が毎時間意識することができるよう「本時に学習する時代や時期」をマグネット等で板書に示す。
- 地理的分野の学習では(内容によっては、他の分野の学習でも)教室に必ず掛け図を用意したり、地理的事象について地図帳でその位置や様子を確認したりする学習を位置付ける。
- 家庭学習においては、ニュースや新聞等で見たり聞いたりした地名や歴史的な出来事を地図や地球儀、年表等で調べて、その位置や意味を確認する。また、年表や時代の特色を示すカードなどをつくり、歴史の大きな流れをつかんでいく学習ができるように指導する。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16~H18)及び授業改善推進プラン(H19・H20)」を参照する。(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)

例	平成17年度 学力向上P」授業改善 第1学年 各時代の特色の明確化と中心となる認識に向けた単元の組織化に取り組んだ実践
例	平成20年度 授業改善推進プラン 第1学年 複数の資料を活用し、思考と認識を深める指導方法の改善に取り組んだ実践
関心・意欲・態度にかかわる指導改善の詳細については、P87意識調査結果を参照する。	
中学校第1学年社会の授業において、生徒が楽しいと感じるのはどんなときか。	
第1位	先生の説明を聞いて新しい事実が分かったとき
第2位	自分で疑問が解決できたとき